

公益社団法人長岡法人会会長賞

私たちの身近な税のしくみ

長岡市立三島中学校

三年 長谷川 竜成

夏休み。友達の家から帰るとき、自転車で工事されている道路を見て僕は思った。この道路工事のお金はどうしているのだろう。国のお金ということは知っていたけど全国で道路を直していたら莫大な費用がかかるはずだ。国のお金の必要なところはそれだけではない。どのようにして国の莫大な費用はまかなわれているのか。

調べたところ、一般歳入という国の収入は三分の一が「国債」三分の二が「税收」だ。「国債」はいろいろと難しいので、三分の二を占めている「税收」について調べてみようと思った。

僕たち学生が一番身近な消費税について調べてみた。消費税は誰もが知っているとおりに物を買ったときに国民が負担する税金の事だ。これは、税收の十七パーセントを占めていて約十八兆円とかなりの額になる。国民一人当たり年間十四万円ちよつと納めている。えっ、自分たちがそんなに買い物をしているのかと疑問に思った。しかし考えてみれば食品にもトイレットペーパーにも歯ブラシにも物体のない電気や水道

にも、生活する為に必要な物には全て消費税がかかってくるのだ。消費税がかからない物ってあるのかと調べてみると住宅家賃や社会保険医療、義務教育費などがある。教科書自体は税金でまかなわれているので消費税はかかっていない。消費税はできることなら払いたくないけど、知らないうちに自分たちも税金を使っているのだ。

消費税は二〇一四年に五パーセントから八パーセントに引き上げられ、さらに二〇一九年には十パーセントに引き上げが計画されているらしい。二〇一四年の引き上げの際、大きい反対が起きたが日本は消費税率がまだ低い国なのだ。フィランドなどはなんと約二十六パーセントにもなっている。しかし、社会保障制度が充実したりしているから国内からの反発はない。社会保障制度に深く関わる人々はうれいかもしれないが、関わりの少ない人からしたらあまりうれいものではないのでは、と僕は思った。消費税が低ければ社会保障制度等が手薄になるかわりに個人的に使えるお金が増えるのだ。だけど税金で道路整備がされたり学校の授業料免除や教科書の配分があったりと普段は気にしていないが僕たちに関わることにも税金は使われている。そう思うと消費税だけではなく税金はちゃんと払わなくてはならないものなのだ。皆が平等に支払って平等に正しく税金が使われるようになればいいと思う。